

目的に応じた記述 通過率 54.4%

この日は、

②取り出した二文をつなぐ

**力のかぎり 走った 5年生!**

十月十日(金) 場マラソン大会  
五年生五十三人

この日は、

また、家の人もたくさんおうえんに来てくれました。

一生けん命走った5年生のすがた

①関係を捉える

10月17日  
広島小学校  
5年1組  
山小川 田中

結果は、男子一位が森山さん、女子一位が川本さんでした。男子一位になった森山さんは、「練習の時より十秒速くゴールできたのでうれし。」と話していました。また、女子一位になった川本さんは、「たくさんの人がおうえんしてくれたので、最後まで走ることができた。」とうれしそうに話していました。

今年のマラソン大会は、一人一人が最後まで全力で走りきり、大成功でした。

取材メモ

○日時 十月十日(金) 午前十時  
○場所 運動場  
○参加者 一年生から六年生の全員 (五年生 五十三人)  
○当日の様子  
・みんないつも以上に一生けん命走っていた。  
・ほとんどの人がこれまでで一番よい記録を出していた。  
・家の人もたくさんおうえんしていた。  
○結果  
・男子 一位 森山さん 二位 西本さん  
・女子 一位 川本さん 二位 田中さん  
○インタビュー  
・一位になれなかったのでもうやしい。(西本さん)  
・たくさんのおうえんしてくれたので、最後まで走ることができた。(川本さん)  
・練習の時より十秒速くゴールできたのでうれし。(森山さん)

④新聞関係の山本さんたちは、学級新聞を作って、学級の友達に読んでもらうことにしました。山本さんは、「マラソン大会」の記事の担当になりました。次は、山本さんの「取材メモ」と「マラソン大会の記事」です。これらを読んで、あとの問いに答えます。

実際の誤答を見ると、記事に必要な二文を取り出すことと、取り出した二文を一文にするもののどちらもできなかった児童が多い。この問題は、まず、【取材メモ】がどのように活用されて【マラソン大会の記事】となっているかを理解する必要がある。問いに関する取材メモの「当日の様子」には三つの事柄が書かれているが、新聞記事と見比べると、そのうちのひとつは既に記事に書かれていることが分かる。残る二文を選び、さらにこの二文を「ので」や「し」といった接続助詞を用いてつなぐ力が必要である。

内容の系統

- 第1・2学年 書くことウ  
語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
- 第3・4学年 書くことウ  
書くこととすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
- 第5・6学年 書くことウ  
事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いたりすること。

解答類型		割合(%)
○	(例) みんないつも以上に一生けん命走っていたし、ほとんどの人がこれまでで一番よい記録を出していました。	33.9
○	(例) みんないつも以上に一生けん命走っていたので、ほとんどの人がこれまでで一番よい記録を出していました。	19.5
○	(例) いつも以上にみんな一生けん命走っていたので、ほとんどの人がこれまでで一番よい記録を出していました。	1.0
×	必要な文を選択できているが、一文で書けていない。	7.4
×	一文にすることはできているが、必要な文を選択できていない。	5.5
×	上記以外の解答	28.7
—	無解答	4.0

**提案** 二文を一文にする必然性のある言語活動を設定し、その中で文と文とのつなぎ方を指導しましょう。

新聞を書く等の言語活動を設定し、取材したメモから情報を取り出し記事を書くといった学習活動では、メモした二文の記事にするために一文にするといった必然性が出てきます。そういった場で、文と文とのつなぎ方を、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イの「(ク)指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。」と関連付けて指導していきましょう。また、メモと実際に書いた記事を比較させ、整った文になったことを実感させることも大切です。